

事業所名 ドレミ児童リハビリセンター（重心以外）

## 支援プログラム（参考様式）

作成日 R6 年 12 月 1 日

法人（事業所）理念		「行為そのものの自立・行為に対する決定権の自立」				
支援方針		自立支援のために、新しい体験を通して、能力を最大限引き出す支援を行います。				
営業時間		8 時	45 分から	17 時	45 分まで	送迎実施の有無 あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	送迎時に学校や自宅での健康状態を確認、来所時に体温測定や口頭での質問により健康状態を把握します。				
		看護師が常駐し、来所途中に体調不良や外傷が発生した場合は対応します。				
		個々の障がい特性に応じ自立した生活が送れるよう絵カードを使用する等、個々に分かりやすいものを導入しています。				
	運動・感覚	自立した日常生活を送れるよう、来所してからの準備等（靴を下駄箱に片付ける、自分の荷物の整理、プログラムに向けて机、椅子の準備等）を繰り返し実施することで日常生活に必要な基本動作を習得できることを目指します。				
		手先の運動や身体の使い方を習得するリハビリテーションを行います。				
		ハサミやノリ、テープ等を使用した制作活動を通して細かい作業を実施することで、手先の感覚刺激や運動へのアプローチを行います。				
	認知・行動	野外活動（近隣の公園）での運動療育（ルール遊びや、スタンプラリー等）を取り入れ、身体機能の向上を目指します。				
		はじめの会にてその日のスケジュールを伝え、プログラム途中（片付けや次の活動への移行等）に自分で時計を見て行動できるような場面設定を行います。				
		一斉指示にて行動する際も、個々の特性に応じて伝え方を配慮し全員が理解できるようにします。				
		こだわり部分への支援においては、状況に応じて受け入れられるような場面設定を繰り返し導入し、積み重ね受け入れられるよう支援します。				
	言語 コミュニケーション	好きな物を介してコミュニケーションの訓練を行うことで、他者への認識を深めていきます。				
		行動障がいへの予防として、1日の流れの中でリスクマネジメントを行い対応していきます。				
		縦割り活動の中で学年に応じた役割を提示します。 （低学年）・相手に興味をもつ ・相手の話をしっかりと聞く ・自分の気持ちを相手に伝える （高学年）・相手の話を聞いて意図や意味を理解した上で自分の意見を明確に伝える ・リーダー的な存在として前に出て皆の意見を聞き、まとめられる力を身に付ける ・低学年の子に対して手助けをすることができるようになる				
	人間関係 社会性	個々の特性に応じたコミュニケーションツールを明確にし、表現方法を習得、個別学習の時間を活用して1対1で積み重ね学習をしていきます。				
		集団療育の中でペアになり物事を遂行していく場面やプログラムを導入し、相手の気持ちを考えたり相手に合わせる等ソーシャルスキルを身に付けられるよう支援します。				
他者と意見が相違した時に受け入れられる練習を積み重ね、気持ちのコントロールができるよう支援します。						
家族支援	ソーシャルスキルトレーニングの一環として買い物学習を導入しています。			移行支援	学校とお子さんの状況や支援内容等の情報を共有し、日常的な連携を目指します。また、ケース会議やモニタリングの際にはできるだけ参加し、インクルージョンの実現に取り組みます。	
	定期的な面談（6か月に一回以上）を行い、事業所での様子を報告、家庭での様子を聞き取ります。課題を共有し、親御さんの心配事などを傾聴することで、お子さんの成長をサポートします。					
地域支援・地域連携		学校や職員と連携し、情報共有を図ります。また、地域活動の紹介を行い、地域の中で安心して過ごせるような環境づくりを支援します。			職員の質の向上	法人内事業所合同の各種研修を月1回行います。新入職員には、事業所独自の新入職員プログラムを使用してOJTを行います。研修システムと人事評価システムの連動により、職員の質の向上を目指しています。
主な行事等		季節行事（お花見、夏祭り、水遊び、クリスマス会、節分、公園への散歩、避難訓練など）				

事業所名

ドレミ児童リハビリセンター（重心）

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

R6 年

12 月

1 日

法人（事業所）理念	「行為そのものの自立・行為に対する決定権の自立」					
支援方針	自立支援のために、新しい体験を通して、能力を最大限引き出す支援を行います。					
営業時間	8 時	45 分から	17 時	45 分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	送迎時に学校や自宅での健康状態（発作の有無・食欲の有無・排泄の有無・その他特変）について確認すると共に、来所時に体温測定等を行い健康状態を確認します。				
		入浴時や更衣、排泄時に身体状態（発疹・外傷等）の確認を行い、変化があれば看護師、ご家族と連携し対応します。				
		看護師が常駐し、来所途中で体調不良や外傷が発生した場合は対応します。				
		個々の障がい特性に応じ自立した生活が送れるよう、絵カードを使用する等、個々に分かりやすいものを導入しています。				
	運動・感覚	施設内にてブランコやバランスボール、ダンス等を用いての運動療育を取り入れ、体幹機能や姿勢保持、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持、強化を図ります。				
		個々の特性に応じ、施設内や野外（近隣公園等）にて車椅子の自走練習や歩行器での歩行訓練、介助歩行練習、階段昇降訓練等を取り入れることで移動能力の向上を目指します。				
		製作等を行う際に、製作物を触る、紙を破る、貼る等の動作を用いて、手先の感覚刺激、運動機能へのアプローチを行います。				
		PTによる個別リハビリテーションを実施します。				
	認知・行動	絵カードの提示やジェスチャーを用いて伝えることで、個々の認知特性に対応した配慮を行います。				
		絵本、製作や数字カード、色カードを用いて、色や形、数字等の概念の習得にアプローチします。				
		好きな物を介してコミュニケーションの訓練を行うことで、他者への認識を深めていきます。				
		行動障がいへの予防として、1日の流れの中でリスクマネジメントを行い対応していきます。				
	言語 コミュニケーション	個々の特性に応じたコミュニケーションツール（ジェスチャー、絵カード、発語等）を使用し、自分の意思を相手に伝えられるような支援を行います。				
	人間関係 社会性	他者と関わりを持ち、共に過ごすことへの喜びを感じられるよう、集団活動（ダンスやハンドベル、対戦ゲーム等）を実施します。				
		相手への要求やお礼等、日常生活での関りの中で、他者と適切に関わる方法を習得できるよう支援し、ソーシャルスキルへとつなげていきます。				
家族支援	定期的な面談（6か月に一回以上）を行い、事業所での様子を報告、家庭での様子を聞き取ります。課題を共有し、親御さんの心配事などを傾聴することで、お子さんの成長をサポートします。	移行支援	学校とお子さんの状況や支援内容等の情報を共有し、日常的な連携を目指します。また、ケース会議やモニタリングの際にはできるだけ参加し、インクルージョンの実現に取り組みます。			
地域支援・地域連携	学校や職員と連携し、情報共有を図ります。また、地域活動の紹介を行い、地域の中で安心して過ごせるような環境づくりを支援します。	職員の質の向上	法人内事業所合同の各種研修を月1回行います。新入職員には、事業所独自の新入職員プログラムを使用してOJTを行います。研修システムと人事評価システムの連動により、職員の質の向上を目指しています。			
主な行事等	季節行事（お花見、夏祭り、水遊び、クリスマス会、節分、公園への散歩、避難訓練など）					